

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家
(ユニット名)	2号館
所在地 (県・市町村名)	愛知県名古屋市緑区尾崎山1丁目1101
記入者名 (管理者)	近藤 桂子
記入日	平成 20年 8月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	政本病院の理念を基に職員全体で尾崎山の家の理念を策定した。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所や玄関などに掲示している。	○ 職員全体で話し合い再確認をする。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には機会あるごとに積極的にお話している。	○ 機会あるごとにお話を持つようになっている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事(盆踊り、ボーリング大会、町内の清掃等)には積極的に参加して感謝の気持ちを伝えている。	○ 時の挨拶はもちろん絶えずお世話になっている旨を伝えるようにしている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内清掃日、自治会加入(会費6000円)等参加し地域の一員としての役割を果たしている。	子供会の廃品回収月1回参加、町内行事に年3~4回参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	時々通りがかりの方や電話等での相談があるが詳しい事は後日改めてという形で担当者が対応していることもある。	○	区内の社会福祉協議会へボランティアの協力支援を依頼中
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの提供・改善に正しい知識を持つ様機会あるごとに話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回位の割合で実施できた。家族の方々を順番に参加できるようにしたら関心が高くなった。	○	ボランティアの方々も参加をして下さり大変関心深く協力的であった。今後も地道に続けたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日々の活動の中で困った事等サービス向上のアドバイスや情報を得るように努力をしている。	○	生活保護の入居者5名をつうじてたくさんのアドバイスや協力を得ていると思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の中には権利擁護事業を利用している方がいるので大変助かっている。	○	もう少し利用しやすい方法があるとよいと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部からの研修も積極的に取り入れ虐待につながる言動はないか絶えず確認をし合っている。		力による暴力は他人がみてもわかるが言葉による暴力は判断しにくいので充分に気をつける様になっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>一入居者には約1時間程の時間を設けゆつくりと確認をして頂くまで説明をしている。疑問点は本部等に確認をして正確な解答に心がけている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>来設時には気軽に話しかけてくださる様に対応に心がける。</p>		本部に確認をとりその返事をなるべく当事者に早く正確にお伝えして理解を得ている。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>月1回は来設して下さる様にしてあるのでその機会を利用して近況報告ができる様にしている。請求書の中には手紙や写真を入れている。</p>		個人の小口現金出納帳の利用状況も併せて報告をし確認のサインを頂く様にしている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>面会時や入電、又は推進会議等で積極的に家族に関わるように早く対応ができるようにしている。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>月1、2回のユニット別会議等を開く事により意見や提案を求めている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>行事や介護業務のフォローに入りやすい様にシフトを組むようにしその担当者にも自信を持って活動をして頂く。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>新規採用の職員には信頼関係が早くできる様に業務分担にも配慮をし、中堅社員には自信をもって活動をする様支援している。</p>		各担当者を定期的に移動させ、誰でもどんな仕事でも対応できるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己啓発のため各種の参考書や資料等の提供をし研修案内も掲示して希望者はシフトに組み入れて参加がしやすい様にしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内のグループホーム分科会やグループホーム協議会等に参加をして研修や交流をはかっている。	名古屋市の認知症連絡協議会にも加入をしており定期的に研修会に参加をしている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	館長自らの体験談を話したりして職員が1日でも早く積極的に仕事に打ち込める様にしている。	○ 本部より経費補助の制度があるので取り入れてストレスの軽減に努めている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	本部からの指示を上手に利用して定期的な研修を継続して職員の資質向上に努めている。	○ 本社より研修と補助の制度があるので大いに利用している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時から入所後の生活に慣れるまで話し合いの機会を密にもち、本人の気持ちや意向を反映したケアにつなげている。	当事者になって相談を受け止め小さな事でも安心にいたる様に配慮をしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談から入居に至るまで、納得がいかれる迄話し合う機会をもち信頼関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーや病院のケースワーカーなども交えて、いろいろなサービスの利用も検討して最善の方法を実行している。当ホームの協力医にも随時相談している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族等と一緒に来設して頂き、当ホームでしばらく見学し過ごされる事によって雰囲気など知って頂く。でてくる疑問にはわかりやすく答え、今後のここでの生活がイメージできるよう支援する。		季節の行事や誕生会等を利用して柔軟に対応をしている。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援、自己決定をふまえた支援を行いながら、職員入居者ともお互い自由に意見が言えたり、お互いの経験や知識、思いを尊重できるように職員全体で心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支えるためにどうサポートしていくか、家族の気持ちや意向を受けとめた上で役割についても相談できる関係を築いている。	○	家族の方への役割を十分に理解して頂き、やれる事から無理のない方法で協力をして頂く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	双方の一種の潤滑剤となつて双方がお互い理解できるように努め、ご家族がご本人の生きがいや生活を支えられるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1回はご家族等への連絡や来訪依頼を行っている。家族や昔の思い出話なども話題にしたり、写真からアルバムをつくったりして楽しい思い出が思いだせるように工夫している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立した入居者をつくらないように職員が情報を共有して、状況に応じて関係改善・維持に努めている。		席順を変えたり入浴時の相手方を変えたりして様子を見ている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所(契約終了)された方にも必要な場合はご家族やご本人の相談をうけるなど精神的サポートを行なっている。		必要に応じて実行をするが、情報等管理の面も忘れない様に努力をしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成や更新時は当然であるが、日々の生活の中で職員が把握に努めている。本人からの意志表示が困難な場合も、もし本人が言葉で言えるとしたらどうか思いをめぐらして汲み取るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接のみではなく、入居後もご本人ご家族から随時アセスメントし、全職員での情報の共有に努め介護に反映させている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	些細な事でも申し送りや記録を行い、全職員が把握した上で業務にかかれるように努めている。	○	本当に体調不良なのか自分に関心をもってほしいのか見極め言葉がけなどにも配慮をしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人が望む生活やご家族の思いなどを大切にし、その人らしい生活の実現や必要なサポートについてケース会議で検討している。必要な場合は協力医や他サービス事業者とも連携し作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に応じて必要な関係者と共に再検討をして計画の見直しを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護詳細記録、申し送りノートに記入し情報の共有に努めている。心身状態の変化のありようについては詳細記録に重点的に記入し必要な場合受診時に細かく情報提供をし相談している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限りお応えできるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お話会や踊りのボランティアの来設や消防署との防災訓練の実施など依頼し実施している。		入居者のご家族にも参加して頂ける様にしている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容や訪問リハビリ、往診などを定期化している。その他随時福祉用具の購入や他サービスの利用の検討などを行なう場合は地域の関係機関に連携している。	○	諸々の関係機関を通じて情報が豊かになりつつある。活用できるように努めている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護に関しては積極的に活用をしている。	○	今後は積極的に関わりを持ちたい。(生活保護が多いため)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医(内科・歯科)以外にも希望に応じて受診できるように配慮して、適切な医療が受けられその後の投薬なども心配のないよう管理服薬支援している。		月1回の往診を月2回にして定期検査も充分に取りいれている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医の内科医が月1回往診しており当ホームでの生活上での助言を得ている。生活上問題行動がでてきた場合は早めに認知症専門医を紹介し診断・治療の機会を持ってもらい、その後の介護計画にあたり助言や指導を得ている。		往診を月1回から月2回にしている。認知症専門医の協力も得て受診治療を実行している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			認知症専門医の協力がある。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご本人・ご家族の了解を得た上で、病院関係者と情報交換を行い、退院相談も含めて連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者・ご家族の思いを最優先とし、当ホームで提供し得る最善サービスを、各関係者と検討している段階である。		本部が受け入れ可能。ケアマネージャーを主として十分な打ち合わせをしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医とも連携をとり、当ホーム内で対応できる範囲を職員とともに話し合い、明確化し、他施設や協力機関への転居なども含めて個別のケース毎に、ご本人・ご家族の意向に沿えるようにする。		少しでも安心して暮らして頂くのが最高であるが対応できない場合も含めて福祉施設や関連医療機関との連携を保っている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人・ご家族などの了解を得た上で、転居先の関係者とも事前に連携をとり、環境変化のダメージを最小限にできるように協議している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝の申し送りや職員会議などをつうじて、確認、振り返りの機会を作っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人が気軽に思いを訴える事のできる信頼関係の構築に努めるとともに、積極的に引き出す努力をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課業務を優先するのではなく、ご本人のその時の希望を尊重した支援を心掛けている。	臨機応変に対応ができる様柔軟な心がけに努めている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出の難しい入居者には訪問理美容を利用して満足できる理美容がうけられるようにしている。外出できる入居者には対応できる限り支援している。	女性の入居者等には衣類の買い物には同行をしてアドバイスをしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の関心やできる事、やれる事をみきわめた上で参加できる部分は参加して頂いている。	個々人の好き嫌いが判明している入居者に対しては日常的に十分に配慮をしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	各自の嗜好品を把握し、ご家族・協力医の了解を求めた上で、できるだけご本人の意向に沿えるように支援をしている。健康上の理由からご本人にストレスにならないように制限する場合も配慮している。	往診時に医師、ご家族、ご本人等を参加させて説明をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自立支援の観点を持ってご本人に適した排泄方法を検討し支援している。心身状態の変化があった時は必要に応じて支援方法を変えている。		本人に適した排泄方法が実行されている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日全員が入浴やシャワーなどできるようにしている。個人必要な配慮をしている。		冬期は職員の配置を考慮して就寝前の入浴を可能にしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の生活習慣を基本として、昼夜逆転など、生活のリズムの修正を少しずつ図っている。布団干しや温度湿度の調整など安眠できる環境を整えるよう日々心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる事ややりたい事を実行していただき、日々の生活の変化や喜び、楽しみにつながるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内ではご家族の了解を得て、事業所で金銭管理を代行しているが、外出時の支払いなどはご自分でできるように配慮し、支援をしている。	○	自己管理が少しずつでもできるように支援検討したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	当日の体調、天候などを配慮しながら、散歩、買い物、ドライブ、喫茶店など、希望に応じて実行している。	○	ボランティアの協力を取り入れたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の希望に応じて、自宅や墓参り、外食など、ご家族の協力を得て支援している。	○	できる入居者、できない等内面的な面も援助が必要である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に手紙も電話も使用できるように支援している。		家族からの定期便(絵手紙)をお願いしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時にご家族にパンフレットを数部お渡しして、いつでも面会できるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に直面したり事例が発生したら、ケア会議で介護方法を再検討し、拘束解除にむけて取り組んでいる。		拘束に関する事例等を本部研修を通じて学んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は特別の事情がない限り、施錠はしないようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	24時間常に見守り、誘導ができる体制をとっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員間で検討をし、ご家族にも了解を得て、ご本人の状況に合わせて段階的に危険防止に取り組んでいる。		収納保管等きちんと管理がされている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒はじめおこりうるリスクには、ケア会議や申し送りで事故防止に努めている。		身近な転倒には特に力を入れ事故防止策を講じている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応手順書は掲示しており、急変が予測できる場合は事前に対応を再確認している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議において地域やご家族も招いて避難訓練を実施している。地域の協力体制が得られるよう常日頃から自治会などにも参加するなどしている。	○	より地域との連携を深め、相互に協力できるようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に当ホームの方針を説明してご理解を得ている。状況の変化に合わせて個別に検討した結果を了承していたできるように説明をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化などを発見したら、速やかに管理者を通じて協力医・ご家族の連絡をし、受診したり、記録をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医・薬局と連携を取り、薬剤情報表・管理表・お薬手帳などを活用し、職員全体が把握しやすくなっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表の活用、ご本人の訴えなどを検討し、食材・調理方法などに工夫をしている。体調をみながら散歩・体操・マッサージなどの支援を行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きなどの声かけを行い、特に就寝前は見守り介助などを必ず実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後・入浴後・体操・散歩・おやつの時間などを通じて、岐路期をしたりして職員が情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルが整備されており、研修内容にも含まれているので、各職員把握できている。	○	感染症についてむやみに軽んじない。むやみに怖がらない。正しい知識を持ち、正しい対応を全ての職員が実行するようにしたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具や食材など、衛生的であるべく定期的に点検・消毒などを管理をしている。	○	夜勤者がおもに実行する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に応じて入居者と職員が協同して、飾り付けや整備・工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの飾り付けなどは、入居者主導で方針を決定し、職員はその支援に協力・アドバイスなどを実行している。	○	入居者のご家族にも参加して頂ける様にしている。特技・技術などを取り入れるように工夫している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを椅子席とソファースペースに分け、玄関前のベンチを利用して頂いたりして、自由に寛げるようにしている。	○	共有スペースの有効利用は特定の入居者にならない様に配慮をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心身ともに安定した生活が維持できるように、馴染みのある家具や写真・仏壇など設置をしている。必要に応じて物品の選定や運搬などを支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムが完備されているが、そのみに頼らず努めて外気を積極的に取り入れ、入居者それぞれの反応を確認しながら調整をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりは十分に設置が施しており、バリアフリー対応になっている。安全整備と自立支援を両立させている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・居室・風呂場など、状況に応じて表示されている。ご本人の訴えに速やかに対応できるよう、環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	寛げるように庭先にベンチが設置してあるので、日光浴や外気浴を楽しみながら、水やり・草とりを共にしている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・生活保護の方を受け入れている。
- ・人生の大先輩として敬う心は忘れないようにしてケアに取り組んでいる。その毎日の活動の中から感謝の気持ちを、少しでも多く持てるように努力している。
- ・何事も隠し事はせず、現実そのままを伝えていくようにしている。